

看護研究 第25巻 総目次

1992年(第1号～第6号)

[表示は、題名……(号)頁、著者名]

[特集] 日本看護診断研究会・第1回学術集会報告

特別講演 看護診断に望むこと……………(1) 2

日野原重明

教育講演Ⅰ

看護診断とは何か?……………(1) 8

松木光子

看護診断と看護理論……………(1) 17

野島良子

教育講演Ⅱ

看護診断：悲嘆＝正当に悲しむということ
……………(1) 28

藤野久美子

看護診断：親役割の変調……………(1) 35

新道幸恵

看護診断：恐怖と不安……………(1) 42

川野雅資

シンポジウム “看護診断と看護教育”

平成カリキュラムと看護診断……………(1) 48

青木康子

基礎看護学と看護診断……………(1) 53

岩井郁子

成人看護学と看護診断……………(1) 62

藤村龍子

基礎教育から臨床の場へ……………(1) 67

端 章恵

臨床からの期待……………(1) 70

櫻井律子

まとめ……………(1) 73

草刈淳子〔司会〕

パネルディスカッション “看護診断にどう取り組むか”
……………(1) 78

中木高夫／松木光子〔司会〕

[焦点] 看護におけるQOLの研究[1]

総論 クオリティ・オブ・ライフ(QOL)その概念的な
側面……………(2) 98

黒田裕子

解説 循環器疾患領域における Quality of life の研究
……………(2)107

萱場一則／五十嵐正紘

海外文献 Development of a Quality of Life Index
for Patients With Cancer—Study Critique—
癌患者のクオリティ・オブ・ライフ・インデック
スの開発：クリティーク……………(2)117

Carol Estwing Ferrans, Betty Rolling Ferrell

／訳・操 華子／黒田裕子

原著論文 悪性腫瘍で病名を告知されずに化学療法を受
けている患者と密接にかかわる家族のストレス・
コーピング……………(2)129

中村めぐみ

原著論文 精神障害者の社会適応モデル：生活の満足と
自己価値に関するパス解析〔第1部〕……………(2)139

羽山由美子

文献紹介 看護学における QOL の概念と測定：2つの看護婦の論文を通して……………(2)153

筒井真優美

〔焦点〕看護における QOL の研究〔2〕

総論 クオリティ・オブ・ライフ(QOL)その測定方法について……………(3)182

黒田裕子

解説 心理学からの QOL へのアプローチ……………(3)193

中里克治

海外文献 Quality of Life of Adults with Chronic Illness : A Psychometric Study 慢性疾患をもつ成人のクオリティ・オブ・ライフ：精神測定学的研究……………(3)203

C. S. Burckhardt, S. L. Woods, A. A. Schultz and D. M. Ziebarth

監訳・黒田裕子／訳・『看護研究』編集室

原著論文 精神障害者の社会適応モデル：生活の満足と自己価値に関するパス解析〔第2部〕……………(3)212

羽山由美子

原著論文 化学療法を受けるがん患者のセルフケア：生活の制限と工夫および療養生活コントロールとの関連……………(3)234

小迫富美恵

原著論文 一人暮らしの女性老人のクオリティ・オブ・ライフ：自己概念と Life Satisfaction を中心にして……………(3)249

田村やよひ

文献紹介 疾病を持つ対象の Quality of Life を測定するための方法：2つの研究論文を通しての QOL 測定方法の検討……………(3)265

深野木智子

〔焦点〕寝たきり老人の看護に関する研究〔1〕

総論 寝たきり老人の看護と看護研究の枠組み……………(4)300

竹内孝仁

解説 「寝たきり老人」の用語について……………(4)307

田島桂子

解説 「寝たきり」と ADL 評価指標：「日常生活自立度(寝たきり度)判定基準」をめぐる……………(4)313

工藤禎子

報告 日本における寝たきり老人の実態調査に関する考察……………(4)323

吉田伸子

研究 最終臥床期間から見た寝たきり老人：疫学的調査方法からのアプローチ……………(4)335

安村誠司／柴田博

〔特集〕フェミニスト・セオリーから看護を見直す 第24回聖路加看護大学公開講座委員会編

第1章 フェミニスト・セオリーの変遷……………(5)397

第2章 フェミニストの観点からの分析……………(5)411

第3章 フェミニズムと看護：課題の再検討……………(5)431

第4章 可能性を探る：フェミニスト原理の課題への応用……………(5)447

第5章 実践におけるフェミニスト原理……………(5)459

第6章 自由討論……………(5)473

Peggy L. Chinn/Charlene E. Wheeler

文献 Feminism Pedagogy in Nursing Education 看護教育におけるフェミニスト教授法……………(5)493

Peggy L. Chinn and Charlene E. Wheeler

訳・第24回聖路加看護大学公開講座委員会

〔焦点〕寝たきり老人の看護に関する研究〔2〕

座談会 老人看護の現状と今後の課題……………(6)506

高原敏夫／中島紀恵子／佐藤美穂子／

田島桂子(司会)

解説 老人のケアにおける家族の負担とストレスに関する研究の動向……………(6)516

太田喜久子

研究 要介助老人と家族のダイナミクス……………(6)525

溝呂木 忠

研究 施設内老人の日常生活自立度の推移と寝たきりの原因分析……………(6)534

青木主税

〔原著論文〕

虚血性心疾患を持ちながら生活する男性のクオリティ・オブ・ライフに関する記述的研究—日常生活の管理とセクシュアリティからの分析

黒田裕子

(その2)……………(2)158

(その3)	(3)271
(その4)	(4)345
看護面接の機能に関する研究—透析患者との面接 過程の現象学的分析	広瀬寛子
(その1)	(4)367
(その2)	(6)541

[英語論文へのアプローチ]

内海 滉

論文語の分解と組立[1]	(3)291
論文語の分解と組立[2]	(4)385
論文語の分解と組立[3]	(6)567

[書評]

「こころは生きている」	(6)577
-------------------	--------

鈴木正子

「医療事故」	(6)578
--------------	--------

草刈淳子

「看護情報のシステム化」	(6)579
--------------------	--------

蓑原美奈恵

註：本誌では、国の内外を問わない看護系大学院の修士課程・博士課程の修了論文、日本看護科学学会および日本看護研究学会で承認された原著論文、および本誌論文審査委員会で原著として認められた論文について、[原著論文]と明示することにしていきます。本誌掲載後に前述の条件に該当することが分かった論文についても、この総目次では「原著論文」として表示しました。

同様に、第24巻以前でも、謝辞や脚注などで前述の条件に当てはまることが示されている論文は「原著論文」に該当しますことをお含みおきください。

『看護研究』編集室

INFORMATION

第3回日本看護診断研究会

平成5年度日本看護診断研究会総会および第3回学術集会を下記の要領で開催します。参加の申し込み方法は右記のとおりです。

日時：1993年(平成5年)5月29日(土)～30日(日)

場所：滋賀県立文化産業交流会館(滋賀県坂田郡米原町)
JR東海道新幹線「米原」駅下車徒歩5分

[プログラム]

●教育講演：

看護診断のCAI(コンピュータ支援教育) 野島良子、近藤善浩(徳島大学大学開放実践センター)
役割理論と看護診断 松木光子(大阪大学医療技術短期大学部)
コーピング理論と看護診断 小笠原知枝(名古屋大学医療技術短期大学部)

●シンポジウム：「いわゆる看護モデルと看護診断」
NANDAの「ユニタリパーソン」モデル 近田敬子(京都大学医療技術短期大学部)
オレムの「セルフケア」モデル 小野寺杜紀(埼玉県立衛生短期大学)
ロイの「適応」モデル 大島弓子(元杏林大学看護専門学校)

[参加者募集]

●受付期間：1993年(平成5年)2月1日～末日

●参加費用：8,000円

●定員：2,000名

●申込方法：往復葉書に、住所・氏名(フリガナ)・電話番号・勤務先・勤務先住所・勤務先電話番号・発送希望先(自宅または勤務先)をご記入のうえ、下記にお送りください。

●なお返信用の葉書は、参加費振込口座や宿泊などについての連絡に用いますので、**両面とも白紙のまま**でお送りください。

●お申し込みは必ず**お一人1枚**でお申し込みください。また、葉書以外による申し込みはお受けできませんのでご了承ください。

●受付期間中でも定員になり次第締め切らせていただきます。万一お受けできなくなりましたときはご容赦ください。

申し込み・問い合わせ先：

〒617 京都府長岡京市神足木寺町3-3

(有)アンサー内 日本看護診断研究会事務局

TEL.(075)956-5898 FAX.(075)956-4058